

平成 23 年度

特別展 「清方の《娘道成寺》と明治の風情」

清方は明治・東京の下町で生まれ育ち、芝居好きであった両親の影響を受け、幼い頃から芝居に親しんでいた。そのため、芝居に画趣を感じた作品も少なくない。中でも娘道成寺に多く取材しており、扮装を変えて踊る「変化物」に強く魅了されていた。本展覧会では、数ある道成寺物の作品の中から、14 幅の連作《京鹿子娘道成寺》(光記念館蔵)と、同じく芝居に題材を取った《権八 小紫》(光記念館蔵)等を、明治の暮らしに風趣を感じた作品と共に、他館所蔵作品を交えて紹介した。

会期 平成 23 年 4 月 28 日(木)～平成 23 年 6 月 1 日(水)

(開館日数:31 日)

総入館者数 3,302 人(一日平均:106 人)



関連記事

「鎌倉清方記念美術館 特別展「清方の《娘道成寺》と明治の風情」

(4 月 1 日、6 月 1 日 かまくら四季のみどころ)

「鎌倉清方記念美術館 特別展 清方の「娘道成寺」と明治の風情」(5 月 1 日 広報かまくら)

「鎌倉市鎌倉清方記念美術館 《特別展》清方の《娘道成寺》と明治の風情」(5 月 1 日 鎌倉旬)

「美術館・文学館めぐり 鎌倉清方記念美術館 娘道成寺と明治の風情」(5 月 1 日 鎌倉朝日)

「しろがね美術館情報 鎌倉市鎌倉清方記念美術館 特別展 清方の《娘道成寺》と明治の風情」(5 月 しろがね)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
権八 小紫	昭和初期	絹本着色・軸	143.0×50.5	光記念館蔵
京鹿子娘道成寺	昭和 3 年(1928)	絹本着色・軸(14 幅)	(各)23.3×29.3	同上
娘道成寺	昭和元年(1926)	紙本着色・軸	70.7×84.4	同上
棗の葉かげ	昭和 38 年(1963)	紙本着色・額	58.0×43.0	同上
紅葉	昭和 22 年(1947)頃	絹本着色・軸	50.0×57.0	同上
神田祭	昭和 10-15 年(1935-40)頃	絹本着色・軸	48.8×56.3	同上
花の山	昭和初期	絹本着色・軸	38.7×43.5	同上
お稽古	昭和 4 年(1929)	紙本着色・軸	44.3×58.0	同上

【所蔵品】

「笠の曲(娘道成寺)」「日高川 道成寺(下絵)」

『画集 東京と大阪』より「東京 築地川(普及版)」「目録」「明石町」「伊達家水門」「組立燈籠」「亀井ばし」「鉄砲洲」「佃島」「船住居」「獺化ける」「築地橋」「氷店」「紫陽花の垣」「作者)」

「東京 築地川」下絵(「目録草稿」「船住居」「氷店)」

「築地川界限」下絵(「軽子橋」(2 点)「佃の渡」(2 点)「明石町」(2 点)「合引橋」「築地河岸)」

『文藝倶楽部』口絵(「そぞろあるき」「梅雨晴」(下絵・校正摺)「都鳥」)『新小説』口絵(「五日市」)

『歌舞伎』(「英獅子(表紙絵・校正摺)」「兼房小紋に蘆と鷺(表紙絵・校正摺)」「牡丹燈籠(表紙絵・校正摺)」

「伊佐衛門の紙衣と編笠(表紙絵・校正摺)」「男之助の隈取と仁木の上下(表紙絵・校正摺)」「那智滝の秋色(校正摺)」

「白拍子の振袖と道成寺の釣鐘(表紙絵)」

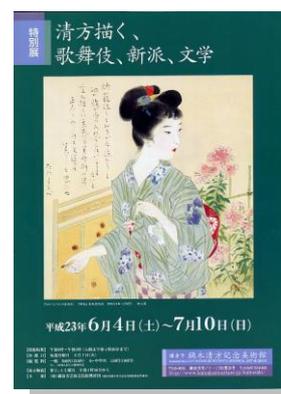
『苦楽』表紙絵(「道成寺」「神田祭)」

特別展 「清方描く、歌舞伎、新派、文学」

清方は、幼い頃から母に連れられて観劇したり、楽屋へ立ち寄ることもあり、芝居を身近に感じていた。芝居に画趣を感じて描いた作品は、数や質ともに充実しており、高く評価されている。

歌舞伎の『冥途の飛脚』に取材した『薄雪』は、死を前に最後の抱擁をかわす二人の姿を描いたもの。はかなく消える運命を雪に重ね、画題に託し、役者の寂しげな表情に趣を感じて表現している。また、文芸誌『苦楽』の名作絵物語として描いた『金色夜叉』（尾崎紅葉作）と『日本橋』（泉鏡花作）は、新派劇として上演されている。

清方がどのように芝居や文学作品を捉え、絵画に描いたかを紹介した。



会期 平成 23 年 6 月 4 日(土)～平成 23 年 7 月 10 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,071 人(一日平均:99 人)

関連事業

美術講演会「清方の描いた歌舞伎、新派、文学」

【講師】大木晃弘氏(国立劇場・芸能部)

【日時】平成 23 年 6 月 7 日(火)13:30～15:30

関連記事

「清方描く、歌舞伎、新派、文学」(3月21日 新美術新聞 2011 年度上半期展覧会カレンダー)

「鏑木清方記念美術館 特別展「清方描く、歌舞伎、新派、文学」」(6月1日 広報かまくら)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 特別展 清方描く、歌舞伎、新派、文学」(6月1日 鎌倉萌)

「清方描く、歌舞伎、新派、文学」(6月1日 アートフィールドウォーキングガイド ギャラリー)

「はみ出し情報 鎌倉市鏑木清方記念美術館 特別展「清方描く、歌舞伎、新派、文学」」(6月1日 江ノ電沿線新聞)

「鏑木清方記念美術館 特別展「清方描く、歌舞伎、新派、文学」」(6月1日 かまくら四季のみどころ)

「特別展「清方描く、歌舞伎、新派、文学」」(6月1日 ジェイシーエヌ・プラス)

「シティライフ 鏑木清方記念美術館 清方描く、歌舞伎、新派、文学」(6月21日、28日、7月5日 読売新聞夕刊)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
薄雪	大正 6 年(1917)	絹本着色・額	186.0×85.0	福富太郎コレクション
刺青の女	大正 2 年(1913)頃	絹本着色・軸	127.0×50.7	同上
日本橋 『苦楽』「名作絵物語」挿絵原画	昭和 23 年(1948)	紙本着色・折帖(8 面)	(各)27.6×21.4	個人蔵
金色夜叉 『苦楽』「名作絵物語」挿絵原画	昭和 22 年(1947)	紙本着色・折帖(8 面)	(各)26.9×21.0	個人蔵
『たけくらべ』の美登利 『苦楽』表紙絵原画	昭和 24 年(1949)	絹本着色・軸	29.7×27.4	個人蔵

【所蔵品】

「早見の藤太」「あじさい」「女役者衆八」「道成寺」「道行浮蟬鷗」「ふたつあちさみ」「註文帖(全 13 図)」

下絵 「薄雪」「本朝二十四孝 十種香の段 八重垣姫」「本朝二十四孝 十種香の段 勝頼」「本朝二十四孝 十種香の段 濡衣」「小説家と挿絵画家」「雪夕入谷畦道 三千歳」「雪夕入谷畦道 直侍」

「泉鏡花著「高野聖」(『現代名作集 別巻』)口絵原画」

「對牛樓の旦開野」(『演芸畫報』口絵、下絵、校合摺)「佐々醒雪著『俗曲評釈 江戸長唄』口絵」「佐々醒雪著『俗曲評釈 河東』口絵」「佐々醒雪著『俗曲評釈 上方唄』口絵」「泉鏡花著『戀女房』口絵」「茶屋の二階」(『演藝俱樂部』口絵、校合摺)「小春」(『文藝俱樂部』口絵、下絵)『歌舞伎』挿絵(「おもかげ帖」(其一～其六、其十))「違ひ柏と三つ巴」(『歌舞伎』表紙絵)「盲兵助と道春館」(『歌舞伎』表紙絵)「床下」(『歌舞伎』挿絵)「藤娘」(『文藝俱樂部』表紙絵)「『日本橋』文庫カバー挿絵」「『金色夜叉繪卷』挿絵」「鳴澤宮の像(『金色夜叉』)(『婦人俱樂部』附録)」

収蔵品展 「清方、物語を絵にする」

清方は、明治24年(1891)に水野年方に入門し、挿絵画家への道を歩み始めた。16歳の頃から、年方の跡を引き継ぎ、新聞・雑誌に小説の挿絵・口絵を多数描いている。また、「深沙大王」(泉鏡花作)、「金色夜叉」(尾崎紅葉作)のための看板絵や、道成寺物などの芝居の演目、井原西鶴や近松門左衛門といった江戸時代に活躍した戯作者の著作にも画趣を感じ、様々な物語を作品にしている。本展覧会では、物語に興味を感じて描いた文学性あふれる清方作品を、代表作である「朝涼」とともに紹介した。

会期 平成23年7月15日(金)～平成23年8月28日(日)

(開館日数:39日)

総入館者数 2,918人(一日平均:74人)



関連事業

「夏休み子ども参加プログラム」

【テーマ】日本画材を使って絵を描き「掛軸」にしよう！

【開催日時】平成23年7月28日(木)・29日(金)・8月5日(金)9:30～11:00

「夏休み親子鑑賞」

【開催期間】平成23年7月15日(金)～8月28日(日)

関連記事

「企画展・夏 鎌倉市鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方、物語を絵にする」

(6月1日 湘南百撰)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展「清方、物語を絵にする」(7月15日 広報かまくら)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展「清方、物語を絵にする」(8月1日 かまくら四季のみどころ)

「夏の美術館・文学館めぐり 鎌木清方記念美術館 清方、物語を絵にする」(8月1日 鎌倉朝日)

「鎌倉市鎌木清方記念美術館 《収蔵品展》清方、物語を絵にする」(8月1日 鎌倉萌)

「しろがね美術館情報 鎌倉市鎌木清方記念美術館 収蔵品展「清方、物語を絵にする」(8月 しろがね)

出品作品

「深沙大王」「朝涼」「金色夜叉」「一葉女史の墓」「清流」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「柳の下に涼む娘」「ゆあみ」

「游心庵漫筆」「夏の思い出」「ゆかた」「にごりえ(全15図、序文)」

下絵 「道成寺」「鯛」「たけくらべ(つり忍)」「たけくらべ(霜の朝)」(2点)

「お夏清十郎物語 第四図、第六図」

「お夏狂乱(口絵)」「盆提灯(清方畫譜の七)」(『講談雑誌』口絵) 「いで湯の夕べ」(『文藝倶楽部』口絵)

「菊池幽芳著『小ゆき』前編、後編口絵」「坪内逍遙著「和歌の浦」(『新小説』)口絵」

「眞山青果著「空虚」(『新小説』)口絵」「泉鏡花著「楊柳歌」(『新小説』)口絵」「前田曙山著「銅臭」(『新小説』)口絵」

「泉鏡花著『薄紅梅』口絵」「菊池幽芳著『百合子』前編、中編、後編口絵」「泉鏡花著『無憂樹』口絵」

『文藝倶楽部』(「尾崎紅葉原著「脚本 喜劇 三箇條」校正摺」「泉斜汀著「田舎女」校正摺」「泉斜汀著「紫手綱」校正摺」)

「小山内八千代著「みだれ」挿絵、カット校正摺」「泉鏡花著「靈象」挿絵」「正岡秋子著「女だてら」挿絵」「英蟬花著「辰巳氣質」挿絵、校正摺」)

「緋鹿子と櫻の分身と」(『歌舞伎』表紙絵)

収蔵品展 「清方、秋の情趣」

鏗木清方は、四季の移ろいに興味を感じ、人物のしぐさ、着物の柄、季節の風物や草花などに一貫して繊細で品格ある美を表現した。

今回出品の《虫の音》は、萩の花の中にかがむ女性が、虫の音に耳を澄ます姿を描いている。また、紅葉した桜の葉が舞う中で、姉妹が一休みする情景を描いた《桜もみぢ》や、秋の夕暮、バイオリンを奏でる女学生を描いた《秋宵》など、本展覧会では、秋の情趣豊かな作品を中心に紹介した。

会期 平成 23 年 9 月 1 日(木)～平成 23 年 10 月 2 日(日)

(開館日数:28 日)

総入館者数 2,326 人(一日平均:83 人)



関連記事

「しろがね美術館情報 鎌倉市鏗木清方記念美術館 収蔵品展「清方、秋の情趣」

(8 月 しろがね)

「収蔵品展 清方、秋の情趣」(8 月 25 日 キュリオマガジン)

「収蔵品展 清方、秋の情趣」(9 月 1 日 広報かまくら)

「鏗木清方記念美術館 収蔵品展「清方、秋の情趣」」(9 月 1 日 かまくら四季のみどころ)

「鎌倉市鏗木清方記念美術館 《収蔵品展》清方、秋の情趣」(9 月 1 日 鎌倉萌)

「鎌倉市鏗木清方記念美術館 清方、秋の情趣」(9 月 25 日 博物館研究)

出品作品

「虫の音」「暮れゆく沼」「教誨」「桜もみぢ」「孤児院」「秋宵」「夕立雲」「ほづき」「雑司ヶ谷会式」「菊慈童」「龍膽」

「築地明石町(下絵)」

スケッチ「小菊」「蟬」「鶏頭」「龍膽」(2 点)「柘榴」(2 点)「古き竹」「柿もみち」「糸瓜」(2 点)「秋宵のためのスケッチ」

「巢鴨風景」「築地明石町のためのスケッチ」「桜もみぢ」「萩」「菊」「鯛」(2 点)

『講談雑誌』口絵 「九月の海(清方畫譜の九)」「戀の湊(清方畫譜の八)」「旅愁(清方畫譜の十)」

「秋のおとづれ」

『文藝俱樂部』口絵 「ゆふ暮」「こすもす」「夜長」「こほろぎ(校合摺)」「あさ露(口絵、下絵、校合摺)」

『新小説』口絵 「秋江(一情一景)」

「清方美人畫譜」 「幕間」「五月雨」「午後後の海」「春雨の寮」「白壁」「青き星」「初雪」「湖のほとり」「濱町河岸の秋」

「島田くづし」

「あさ露」(『文藝俱樂部』口絵、下絵、校合摺)

収蔵品展 「清方描く、江戸情趣」

明治11年(1878)、清方は神田に生まれ、青少年期を江戸の面影が残る東京の下町で過ごした。

今回出品の《曲亭馬琴》では、目の見えない馬琴が、息子の嫁に口述筆記させ、小説を完成させようとしている。馬琴は江戸後期の人気小説家で、清方は子どものころに『南総里見八犬伝』等を読み、親しんでいた。

そのほか、三人の女性が古いに興じる姿を描いた《狐狗狸》や《朝夕安居》など、清方が青少年期を追懐して描いた作品を紹介した。

会期 平成23年10月6日(木)～平成23年10月30日(日)

(開館日数:22日)

総入館者数 2,450人(一日平均:111人)



関連記事

- 「鎌倉市鐮木清方記念美術館 収蔵品展「清方描く、江戸情趣」」(9月1日 湘南百撰)
- 「鎌倉市鐮木清方記念美術館 清方描く、江戸情趣」(9月25日 博物館研究)
- 「鐮木清方記念美術館 収蔵品展「清方描く、江戸情趣」」(10月1日 広報かまくら)
- 「秋の美術館・文学館めぐり 鐮木清方記念美術館 清方描く 江戸情趣」(10月1日 鎌倉朝日)
- 「鎌倉市鐮木清方記念美術館(収蔵品展)清方描く、江戸情趣」
(10月26日 旅うらら 鎌倉・湘南ガイドMAP)
- 「鎌倉市鐮木清方記念美術館 収蔵品展「清方描く、江戸情趣」」(第六回鎌倉芸術祭チラシ)

出品作品

- 「狐狗狸」「曲亭馬琴」「雨華庵風流」「有卦自祝之絵」「朝夕安居 夕」「栗をむく娘」「水汲」「新大橋之景」「先師の面影」
- 「僧房春蘭(牡丹の寺)」「子供二人」「年増美人」「山百合」「太夫」
- 下絵 「蕪」「八幡鐘」「山東京伝」「瀧野川観楓」「霽れゆく村雨(小下絵)」「花火」「三菱銀行」「十一月の雨」「柿と童」
- 「金魚屋」「蜆」「《断崖(部分)》」「江戸風俗」「夕霧阿波鳴渡」「筆捨松」「酒中花」「江戸十五題の一 八幡鐘」
- 「今様絵詞の会 金の井の李月夜」(「大広間」「庄屋やしき」「月の江戸川」)
- スケッチ「曲亭馬琴のためのスケッチ」(2点)「紅雨荘」「江戸美人」「御濠端 辨慶橋」「亀戸梅園 臥竜梅」
- 「大川雪景色」「佃の渡」
- 「伽羅」(『文藝倶楽部』口絵)
- 「八幡鐘」(『文藝倶楽部』口絵)
- 「古愚庵主人著『ゆるさぬ関』口絵、校合摺」
- 『鐮木清方繪入本 御濠端』より「御濠端 辨慶橋」
- 「前田愛・木村真佐幸・山田有策著『全集樋口一葉① 小説編一』」
- 「塩田良平著『写真作家伝叢書9 樋口一葉』」
- 「千葉市美術館編『八犬伝の世界』」
- 「鐮木清方著『鐮木清方文集 一 制作餘談』」

特別展「清方、三遊亭圓朝との出会いと芝居への愛慕」

鑄木清方の父・條野採菊は、清方が8歳の時にやまと新聞を創刊した。当時名作家であった三遊亭圓朝の人情斬を新聞の紙面に掲載するため、時には自宅で口演を催すことがあり、清方も楽しんで聞き入っていた。その後、圓朝の勧めで画家への道を歩み始めた清方は、17歳の時に、圓朝の取材旅行に同行し、実直な仕事ぶりに感銘を受ける。昭和5年、清方は、画壇で広く認められるようになり、圓朝への感謝を表わそうと、今まであまり興味が湧かなかった肖像画に挑んだ。圓朝の高座での姿を写し、人となりを加えて《三遊亭圓朝像》を描き、高く評価され、平成15年には重要文化財に指定された。本特別展では、三遊亭圓朝に関わる作品を中心に、寄席や芝居に取材した作品を紹介した。



会期 平成23年11月3日(木・祝)～平成23年12月9日(金) (開館日数:31日)

総入館者数 3,042人(一日平均:98人)

関連事業

美術講演会「三遊亭圓朝と明治の芝居」

【講師】今岡謙太郎氏(武蔵野美術大学教授)

【日時】平成23年11月8日(火)13:30～15:30

関連記事

「鎌倉市鑄木清方記念美術館〔特別展〕清方、三遊亭圓朝との出会いと芝居への愛慕」

(10月26日 旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

「鑄木清方記念美術館 特別展「清方、三遊亭圓朝との出会いと芝居への愛慕」」(11月1日 広報かまくら)

「首都圏情報 ゆめぼつけ 美術・博物館ガイド 鎌倉市鑄木清方記念美術館」(11月3日 東京新聞)

「照明灯」(11月12日 神奈川新聞)

「鎌倉市鑄木清方記念美術館 《特別展》清方、三遊亭圓朝との出会いと芝居への愛慕」(12月1日 鎌倉萌)

「美術館・文学館めぐり 鑄木清方記念美術館 三遊亭圓朝との出会い」(12月1日 鎌倉朝日)

「鑄木清方記念美術館 特別展「清方、三遊亭圓朝との出会いと芝居への愛慕」」(12月1日 かまくら四季のみどころ)

「しらがね美術館情報 鎌倉市鑄木清方記念美術館 清方・三遊亭圓朝との出会いと芝居への愛慕」(12月 しらがね)

「鎌倉市鑄木清方記念美術館 特別展「清方、三遊亭圓朝との出会いと芝居への愛慕」」(第六回鎌倉芸術祭チラシ)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
三遊亭圓朝像 (重要文化財)	昭和5年(1930)	絹本着色・軸	138.5×76.0	東京国立近代美術館蔵
遊女	大正7年(1918)	絹本着色・屏風(二曲一隻)	161.1×169.6	横浜美術館蔵
春宵怨	昭和26年(1951)	絹本着色・額	126.0×71.0	同上
京橋金沢亭	昭和10年(1935)頃	絹本着色・額	41.0×57.8	福富太郎コレクション

【所蔵品】

「寒月」「金色夜叉」「嫁ぐ人」「梅蘭芳 天女散華」「カルメン」「朝夕安居 朝」「娘道成寺(笠の曲)」「先代萩 一・二」

「大蘇芳年」「浅みどり」「ほづき」

「三遊亭圓朝像(下絵)」「三遊亭圓朝像(スケッチ)」「金色夜叉(スケッチ)」「道成寺(スケッチ)」

『文藝俱樂部』口絵(「芝居茶屋の二階」「花吹雪」「梅雨晴」「あさ露」「そぞろ歩き」「よき事きく」「都鳥」「緋桃」「白魚」

「小春」「こすもす」)

『新演藝』口絵(「芝居美人画譜一『義経千本櫻』静御前」「直侍へ出る千代春」「濡衣(芝居十二ヶ月)」)

「岡村柿紅著『よし也男丹前姿』(『演藝俱樂部』)下絵(2点)」「藤娘(口絵)」

「英獅子『歌舞伎』表紙絵・校正摺」「兼房小紋に蘆と鷺(おさんの紋附)『歌舞伎』表紙絵・校正摺」「牡丹燈籠『歌舞伎』

表紙絵・校正摺」「伊左衛門の紙衣と編笠『歌舞伎』表紙絵・校正摺」「男之助の隈取と仁木の上下『歌舞伎』表紙絵・校

正摺」「那智滝の秋色『歌舞伎』校正摺」「藤娘『文藝俱樂部』表紙絵」「吉野山『苦樂』表紙絵」「道成寺『苦樂』表紙絵」

『『娯楽世界』表紙絵」「時代美人風俗雙六『文藝俱樂部』附録」「女歌舞伎(絵葉書)」「天女の舞 悼花の歌(絵葉書)」

「野崎村(切手)」「三遊亭圓朝像『開館十周年記念図録』(参考図版)」

収蔵品展「新春 羽子板展」

官展へ出品された鏗木清方の作品は、高い評価を受け、しばしば押絵師によって意匠化されて羽子板になった。今回出品の押絵羽子板《ためさるゝ日》は、大正7年第12回文展に出品された作品を参考にしたもの。作品は、長崎の遊女の踏絵に取材している。また、《春の夜のうらみ》は、大正11年第4回帝展へ出品された作品をもとにしている。京鹿子娘道成寺の一場で、恨みの鐘を見つめる娘の姿を描いたものである。本展覧会では、押絵羽子板を中心に、正月を迎えた人々の暮らしを描いた口絵などを展示した。



会期 平成23年12月14日(水)～平成24年1月29日(日)

(開館日数:36日)

総入館者数 2,837人(一日平均:78人)

関連記事

- 「企画展・冬 鎌倉市鏗木清方記念美術館 収蔵品展「新春 羽子板展」(12月1日 湘南百撰)
- 「鏗木清方記念美術館 収蔵品展「新春 羽子板展」(12月1日、1月1日 かまくら四季のみどころ)
- 「気になる情報ばれっと 県外美術館博物館 押絵羽子板 春の夜のうらみ」(12月16日 上毛新聞)
- 「今月のおすすめ展覧会 新春 羽子板展 鏗木清方記念美術館」(12月20日 美じょん新報)
- 「鏗木清方記念美術館 「新春 羽子板展」(1月1日 かまくら春秋)
- 「鏗木清方記念美術館 収蔵品展「新春 羽子板展」(1月1日 広報かまくら)
- 「首都圏情報 ゆめぼつけ 美術・博物館ガイド 鎌倉市鏗木清方記念美術館」(1月5日 東京新聞)
- 「気ままに寄り道散歩道 16——いいな、鎌倉」(1月8日 神奈川新聞)
- 「鏗木清方の絵題材に羽子板 鎌倉の美術館で展示」(1月10日 神奈川新聞)
- 「インフォメーション 鏗木清方記念美術館 新春 羽子板展」(1月15日 書道界)
- 「Friday かながわ イベントガイド 収蔵品展「新春 羽子板展」(1月20日 読売新聞)
- 「鎌倉市鏗木清方記念美術館 収蔵品展 新春 羽子板展」(1月23日 旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

出品作品

- 「ためさるゝ日(右幅)」「雪空」「風景」(2点)「松のうち」「白梅」「歳旦」「喜寿」
- 「初冬の花(下絵)」「鉢植の梅松(試筆)」「初雁の御歌(小下絵)」「讃春(小下絵)」
- 口絵 「元日の朝(『婦人世界』)」「渡邊霞亭著『渦巻』續編」「春を待つ(『文藝俱樂部』)」「餅むしろ(『文藝俱樂部』)」
- 「虎の門 見立十二姿の内(『新小説』)」
- 「初夢(清方畫譜の一)(『講談雑誌』)」「朝寒(清方畫譜の十一)(『講談雑誌』)」
- 「炬燵(清方畫譜の十二)(『講談雑誌』)」「都大路(『文藝界』)」「菊池幽芳著『小ゆき』後編」
- 「紅梅(『女學世界』)」「小栗風葉著『新かつら下地』」「初東風(『大正婦人』)」
- 「年始まわり」「栗むく女」「小田原の海」「初雪」「微笑」「春装」「春の人」「雪積む宵(名畫十二月その二)」
- 押絵羽子板 「明治風俗十二月月」「春の夜のうらみ」「ためさるゝ日」
- 「村上浪六著『当世五人男のうちの川上三吉』後編 表紙絵」
- 「江見水蔭著『空中飛行器』前編 表紙絵」
- 『文藝俱樂部』附録(「新案雙六當世二筋道」「齋崎英朋・鏗木清方合作 新年大附録「松の内」)」
- 風呂敷(「扇面に松と飴や」「扇子とたちばな」)
- ふくさ(「氷梅」「松皮菱に梅」「梅」)
- テーブルセンター(「松皮菱に梅」)
- 「風俗美人畫(一)松ノ内 朝日カレンダー 一月」
- 「讃春『別冊太陽』(参考図版)」

収蔵品展 「清方と舞台」

【第一期】

鏑木清方は、劇評家の父と芝居好きの母のもとに生まれ、物心つく前から芝居を見ていた。自宅近くにあった新富座の舞台袖から、役者や芝居茶屋の子である友人たちと演技を見たり、雑誌『歌舞伎新報』を愛読する少年時代を送っている。

挿絵画家の頃には、『歌舞伎』に挿絵や芝居のスケッチ、劇評を寄せている。展覧会へ日本画の出品を始めてからは、好んで芝居に取材した作品を制作し、舞台装置の演出にも携わった。

本展覧会では、清方の舞台関連の作品を中心に紹介した。



会期 平成 24 年 2 月 7 日 (火)～平成 24 年 3 月 11 日 (日)

(開館日数:30 日)

総入館者数 2,638 人(一日平均:87 人)

関連記事

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 収蔵品展 清方と舞台 第一期」(1月23日 旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 《収蔵品展》清方と舞台 第一期」(2月1日 鎌倉萌)

「鏑木清方記念美術館 「清方と舞台 第一期」」(2月1日、3月1日 かまくら春秋)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「清方と舞台【第一期】」(2月1日、3月1日 かまくら四季のみどころ)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「清方と舞台 第一期」」(2月15日 広報かまくら)

出品作品

「慶喜恭順」「深沙大王」「早春」「朝夕安居」「砧」「舞妓」「二人静」

「崔承喜 一」「崔承喜 二」「白梅」「梅蘭芳 天女散華」「道行浮嶋鷗」「芸妓」

「崔承喜(下絵)」(2点)

『朝顔日記』(「目録草稿」「構想略図」)

『朝顔日記(下絵)』(「宇治の蛍」「朝顔の歌」「明石船別れ」「浜松」「島田の宿」「目なし鳥」「めぐりあひ」「露の干ぬ間」

「川とめ」「大井川」「ひれふる山」「かへり咲」「道行」)

「明治の女(下絵)」「歌舞伎の始(下絵)」

「崔承喜のためのスケッチ」(3点)「水仙(スケッチ)」「沈丁花(スケッチ)」「桃の花(スケッチ)」

「慶喜恭順のためのスケッチ」

「幕間『清方美人畫譜』」「濡衣(芝居十二月)」「新演藝」口絵」「箕輪心中の綾衣(芝居十二月の内)」「新演藝」口絵」

「お夏狂乱(口絵)」「對牛樓の旦開野『演藝畫報』附録」「額の小さん(芝居十二月の中)」「新演藝」口絵」

「軍国をんな雙六(『文藝俱樂部』附録)」

絵葉書(「芝居のお七」「朝顔と駅路の女」)

「鏑木清方著「梨園の長者」(『幕間別冊 松本幸四郎追悼號』)」

「鏑木清方著「見物席から 一～三」(『演藝畫報』)」

「鏑木清方著「菊五郎片影」(『演藝畫報』)」

「高野聖(『苦樂』)表紙絵」「高尾さんげ 鏑木清方氏筆舞臺装置(『塔影』)」

「崔承喜 新作舞踏公演パンフレット(参考図版)」「甦る幕末(『明治大正図誌』)」

収藏品展 「清方と舞台」

【第二期】

明治 33 年(1900)、雑誌『歌舞伎』が発行された。鏗木清方はその創刊から関わり、挿絵や舞台のスケッチを描いただけではなく、劇評も寄せていた。その後も好んで芝居に関わっている。

《笠の曲(娘道成寺)》では花笠を使って踊る場面を描き、《道成寺》では鞆鼓と呼ばれる太鼓を胸につけて踊る「山づくし」の場面を描いた。

本展覧会では清方の芝居絵を中心に、《しだれ桜》や《嫁ぐ人》など、春の風情を描いた作品も紹介した。



会期 平成 24 年 3 月 15 日(木)～平成 24 年 4 月 15 日(日)

(開館日数:28 日)

総入館者数 1,612 人(一日平均:57 人)

関連事業

「春休み子ども参加プログラム」

【テーマ】日本画材を使って、「貝合わせ」を作ろう！

【開催日時】平成 24 年 4 月 3 日(火)、4 日(水)

「春休み親子鑑賞」

【開催日時】平成 24 年 3 月 24 日(土)～4 月 4 日(水)

関連記事

「鎌倉市鏗木清方記念美術館 収藏品展 清方と舞台 第二期」(1 月 23 日 旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

「鏗木清方記念美術館 「清方と舞台 第二期」」(3 月 1 日、4 月 1 日 かまくら春秋)

「企画展・春 鎌倉市鏗木清方記念美術館 収藏品展 清方と舞台 第二期」(3 月 1 日 湘南百撰)

「美術館・文学館めぐり 鏗木清方記念美術館 清方と舞台」(3 月 1 日 鎌倉朝日)

「鏗木清方記念美術館 収藏品展「清方と舞台 第二期」」(3 月 15 日 広報かまくら)

「美・博ピックアップ 一瞬の輝き捉えた「見巧者」 鏗木清方記念美術館 清方と舞台」(3 月 21 日 朝日新聞夕刊)

「鏗木清方記念美術館 収藏品展「清方と舞台【第二期】」(4 月 1 日 かまくら四季のみどころ)

「鎌倉市鏗木清方記念美術館 《収藏品展》清方と舞台 第二期」(4 月 1 日 鎌倉萌)

「Friday かながわ 収藏品展「清方と舞台 第二期」」(4 月 6 日 読売新聞)

出品作品

「金色夜叉」「しだれ桜」「嫁ぐ人」「春の立場茶屋(金沢春景)」「早見の藤太」「襟おしろい」「寺子屋画帖」

「笠の曲(娘道成寺)」「春や昔」「道成寺」「浅みどり」「桜乙女」

「春宵怨(下絵)」「田舎源氏(下絵)」「常盤津林中(下絵)」「野崎村(下絵)」「鷺娘(下絵)」

「今様絵詞の会「高野聖」(下絵)」「舞踏道成寺(下絵)」「お夏清十郎物語 第四、第六回(下絵)」

「女役者衆八(下絵)」

「三ッ股川の高尾(『演藝倶楽部』口絵)」「光のどけき(『講談雑誌』口絵)」「千代田の大奥(『講談世界』口絵)」

『文藝倶楽部』口絵(「小春」「花吹雪」「都鳥)」「『義経千本櫻』の静御前(芝居美人畫譜一)(『新演藝』口絵)」

「辰橋の小百合(芝居十二ヶ月の内)(『新演藝』口絵)」「茶屋の二階(『演藝倶楽部』口絵下絵)」

『歌舞伎』挿絵(「一本足と雪女郎と」「少女の怪力と浪士の切腹と」「奥殿の刺客」「玉菊の亡魂」「嘉永のだんまり」「助六の写生七種」「太鼓櫓」「松明の睨合」「菊五郎の幸内と貢」「源氏店」「飯焚と床下」「狐火の狂ひ」「二條院讃岐狂乱の圖」「奥庭の述懐」「蜘蛛の振舞」「對面の幕切」「八百屋献立)」

『歌舞伎』表紙絵校正摺(「英獅子」「伊左衛門の紙衣と編笠」「男之助の隈取と仁木の上下」「兼房小紋に葦と鷺(おさんの紋附)」「牡丹燈籠)」

「道成寺(『苦樂』表紙絵)」「吉野山(『苦樂』表紙絵)」「白拍子の振袖と道成寺の釣鐘(『歌舞伎』表紙絵)」「緋鹿子と櫻の文身と(『歌舞伎』表紙絵)」